

新型コロナウイルス感染症にかかる 病床確保計画改定（案）

病床確保計画の改定について

● 病床確保計画(令和2年7月10日策定・10月14日改定)

○新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた病床の運用を図るため策定した計画
(宿泊療養施設確保計画含む)

● 各医療機関は、病床確保計画に基づき病床を運用

		10月10日 ～	10月30日 ～	11月9日 ～	11月19日 ～	11月25日 ～	12月7日 ～	3月1日 ～
重症	運用フェーズ (入院者数)	フェーズ2 (23人)	フェーズ2 (26人)	フェーズ3 (51人)	フェーズ4 (76人)	フェーズ4 (107人)	フェーズ4-2 (141人)	フェーズ3 (87人)
軽症 中等症	運用フェーズ (入院者数)	フェーズ1 (165人)	フェーズ2 (279人)	フェーズ3 (389人)	フェーズ4 (530人)	フェーズ4-2 (676人)	フェーズ4-2 (735人)	フェーズ3 (514人)

※入院者数は切替日時点の値

フェーズ4ステージ2は当時の病床確保計画にはない運用上のフェーズ

● 確保計画最大設定病床数 (第1波の感染状況の分析等に基づき設定)

1,615床+α (重症病床 215床+α (大阪コロナ重症センター) 軽症中等症病床 1,400床)

● 病床確保計画の改定(見直し)のポイント

① 確保計画最大設定病床数

・現在の確保病床数を基本に「最大確保病床数」を設定

2,021床 (重症病床221床 (大阪コロナ重症センター含む) 軽症中等症病床 1,800床)

※変異株の動向に注視し、更なる感染拡大に備え、最大設定病床数 (2,021床) を超える病床確保にも取り組む (新たに重症病床の整備を行う医療機関への支援等)

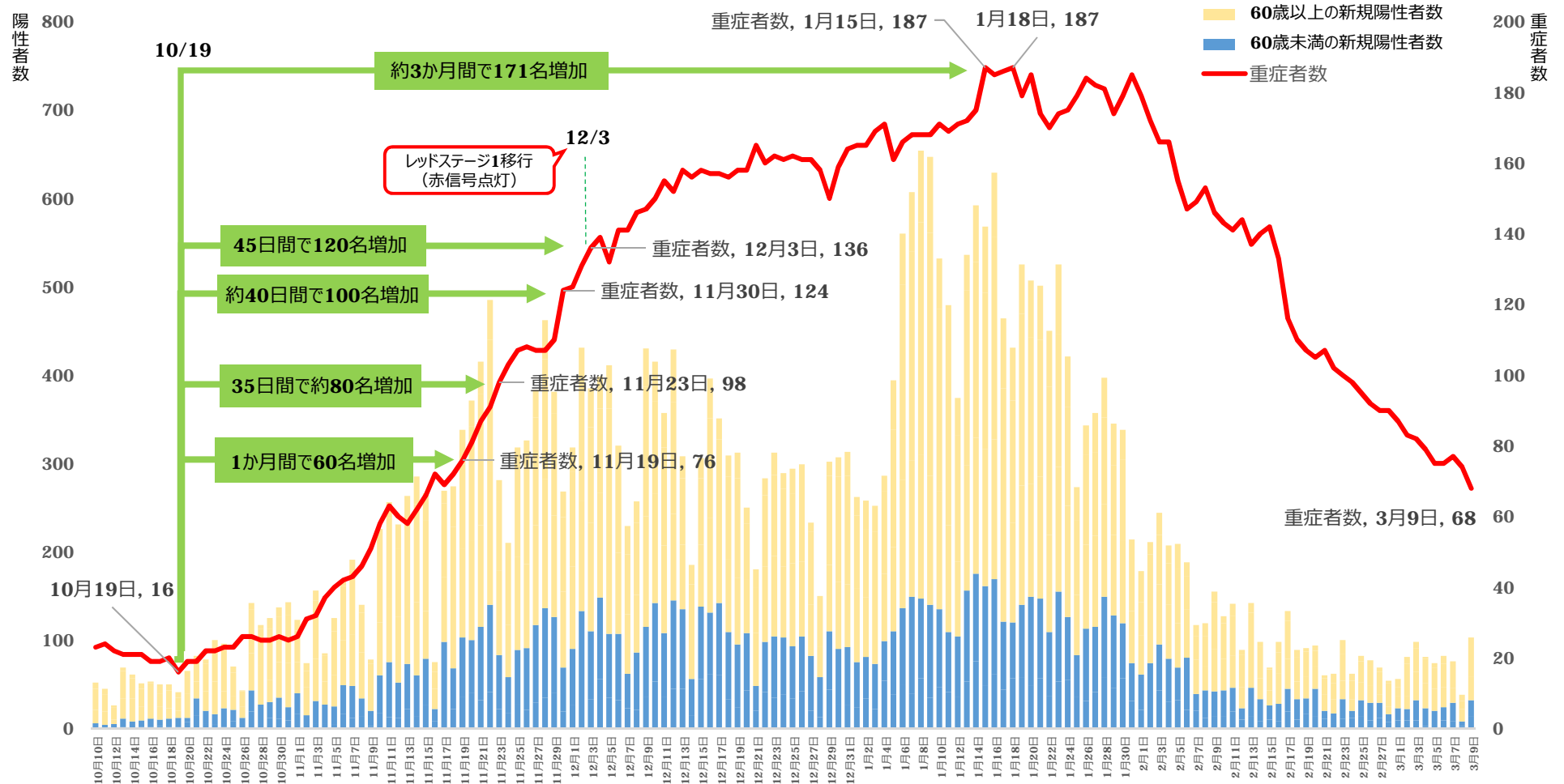
② 病床運用フェーズ毎の設定病床数と移行基準

・各受入病院から提出のあったフェーズごとの計画病床数の総数を基本に病床数を設定

・第3波の感染拡大状況を踏まえフェーズ移行基準を設定

※今後、国の動向を踏まえ、病床確保計画は必要に応じて適宜見直しを検討

【参考】第三波の重症者数と60歳以上の陽性者数の推移

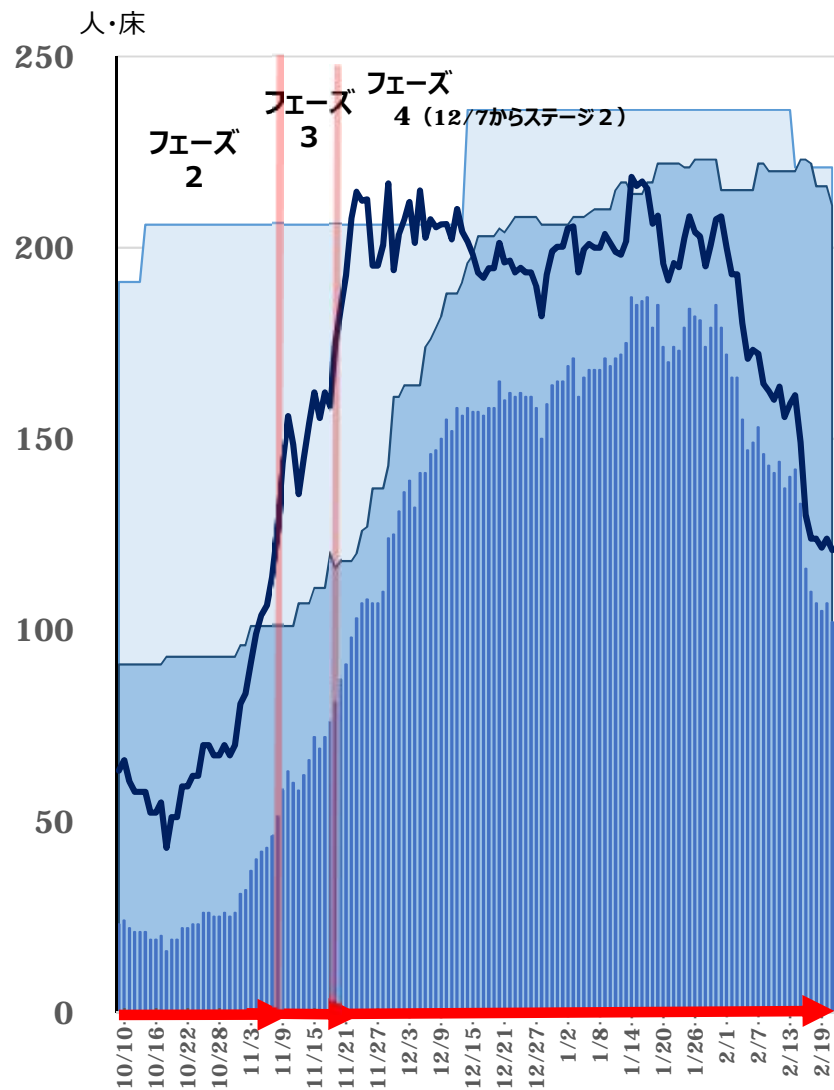


○入院患者実績最大数（令和3年2月22日時点）

重症患者 187人（令和3年1月15日、18日） 軽症中等症患者 1,091人（令和3年1月25日）

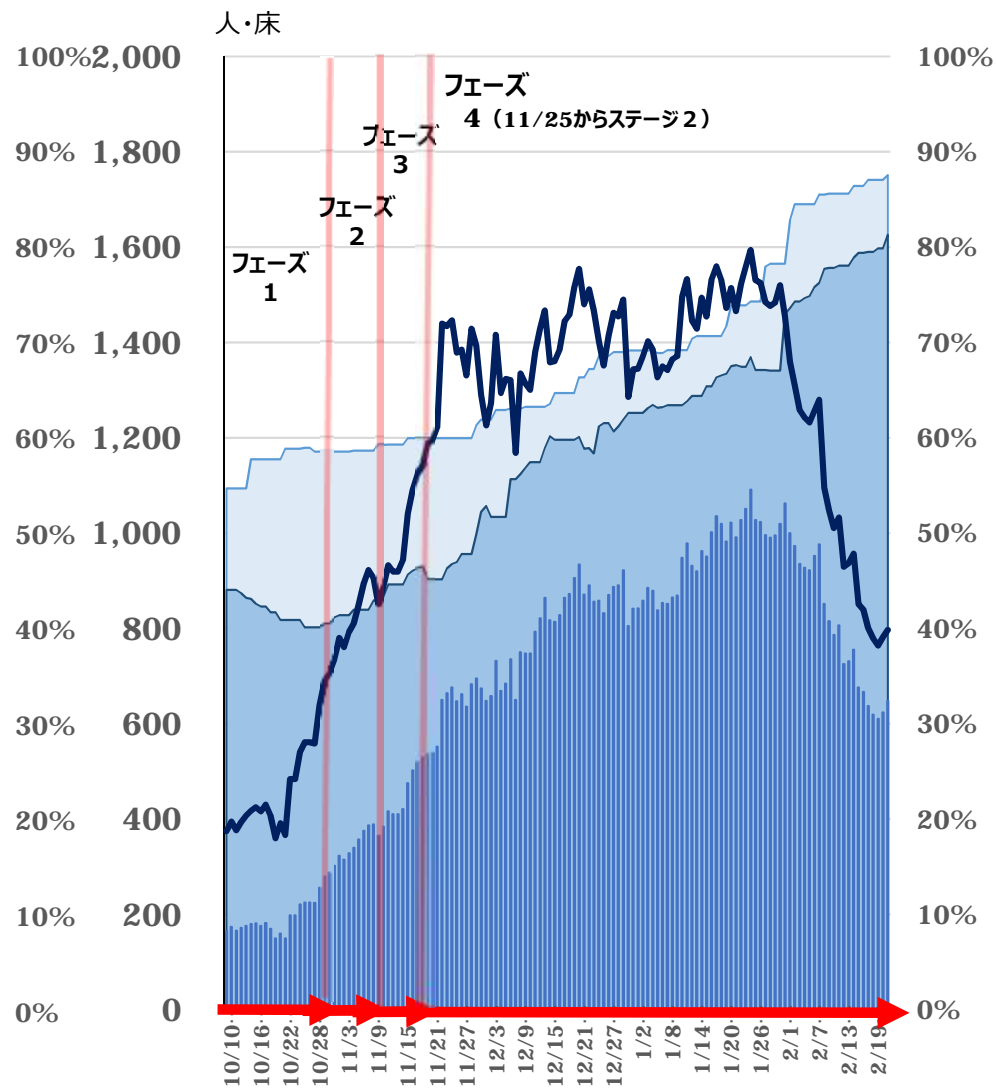
【参考】第3波における患者数と運用数病床の推移

重症



■ 確保病床数（重症） ■ 運用病床数（重症）
■ 重症入院患者数 — 病床運用率（重症）

軽症中等症



■ 確保病床数（軽症中等症） ■ 運用病床数（軽症中等症）
■ 軽症中等症入院患者数 — 病床運用率（軽症中等症）

【参考】第3波での病床運用の状況(令和2年10月10日～令和3年2月28日)

○フェーズ運用（フェーズ移行の要請日）状況

【重症】

日付	運用病床数	入院患者数	病床運用率	移行要請内容等
11月9日	101床	51人	50.5%	フェーズ2 (80床) ⇒フェーズ3 (150床)移行要請
11月19日	120床	76人	63.3%	フェーズ4 (215床) 移行要請
12月1日	161床	125人	77.6%	フェーズ3 設定数 (150床) 運用スタート
12月7日	174床	141人	81.0%	フェーズ4 ステージ2 移行要請
1月12日	215床	171人	79.5%	フェーズ4 設定数 (215床) 以上の運用スタート

フェーズ3の
移行要請
から設定病
床の運用ま
で**22日間**

※令和2年10月14日改定の病床確保計画では、新型コロナウイルス感染症患者等受入病床の準備に要する期間を「概ね1週間以内」としてフェーズの移行期間を設定

【軽症中等等症】

日付	運用病床数	入院患者数	病床運用率	移行要請内容等
11月9日	859床	389人	45.3%	フェーズ2 (800床) ⇒フェーズ3 (1,000床)移行要請
11月19日	929床	530人	57.1%	フェーズ4 (1,400床) 移行要請
11月25日	935床	676人	72.3%	フェーズ4 ステージ2 移行要請
12月1日	1,045床	674人	64.5%	フェーズ3 設定数 (1,000床) 以上の運用スタート
2月1日	1,459床	1,062人	72.8%	フェーズ4 設定数 (1,400床) 以上の運用スタート

フェーズ3の
移行要請
から設定病
床の運用ま
で**22日間**

※令和2年10月14日改定の病床確保計画では、新型コロナウイルス感染症患者等受入病床の準備に要する期間を「概ね2週間以内」としてフェーズの移行期間を設定

【参考】第3波での病床運用の状況(令和2年10月10日～令和3年2月28日)

○感染拡大時の入院患者数

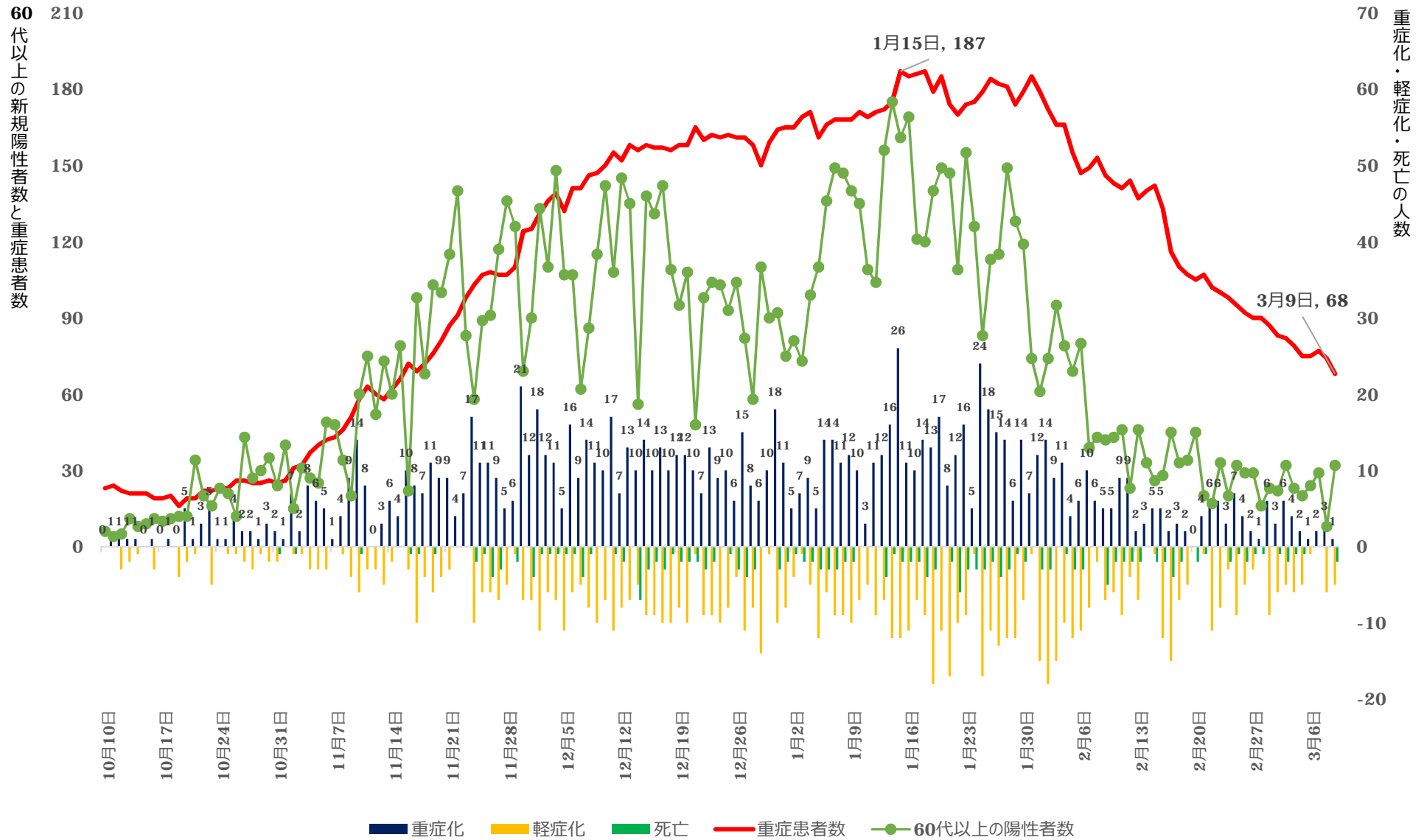
	1週間当たり増加数 (前週の同曜日からの増加数)		1日当たり増加数 (前日からの増加数)
	最大値	中央値	最大値
重症	35人	4人	14人(11月30日)
軽症中等症	175人	31人	100人(12月9日)

○延べ病床数・延べ入院者数・病床稼働率(延べ入院者数/延べ受入病床数)

	延べ入院 患者数 (A)	延べ確保 病床数 (B)	延べ運用 病床数 (C)	確保病床 稼働率 (A)/(B)	運用病床 稼働率 (A)/(C)
重症	16,378人	31,247床	24,053床	52.4%	<u>68.1%</u>
軽症中等症	94,117人	193,911床	165,438床	48.5%	<u>56.9%</u>

【参考】新規陽性者数と重症者数の推移

60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）



病床確保計画（重症） 現行計画と改定案

【現行計画】

	設定 病床数※	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)
フェーズ1	60床	重症患者数およそ27人以上（病床使用率※※45%以上）⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	80床	重症患者数およそ36人以上（病床使用率45%以上）⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	150床	重症患者数およそ105人以上（病床使用率70%以上）⇒フェーズ4移行準備
フェーズ4	215床	—

※最大設定病床数には、大阪コロナ重症センターの病床を含まない ※※病床使用率 = 重症患者数 / 設定病床数

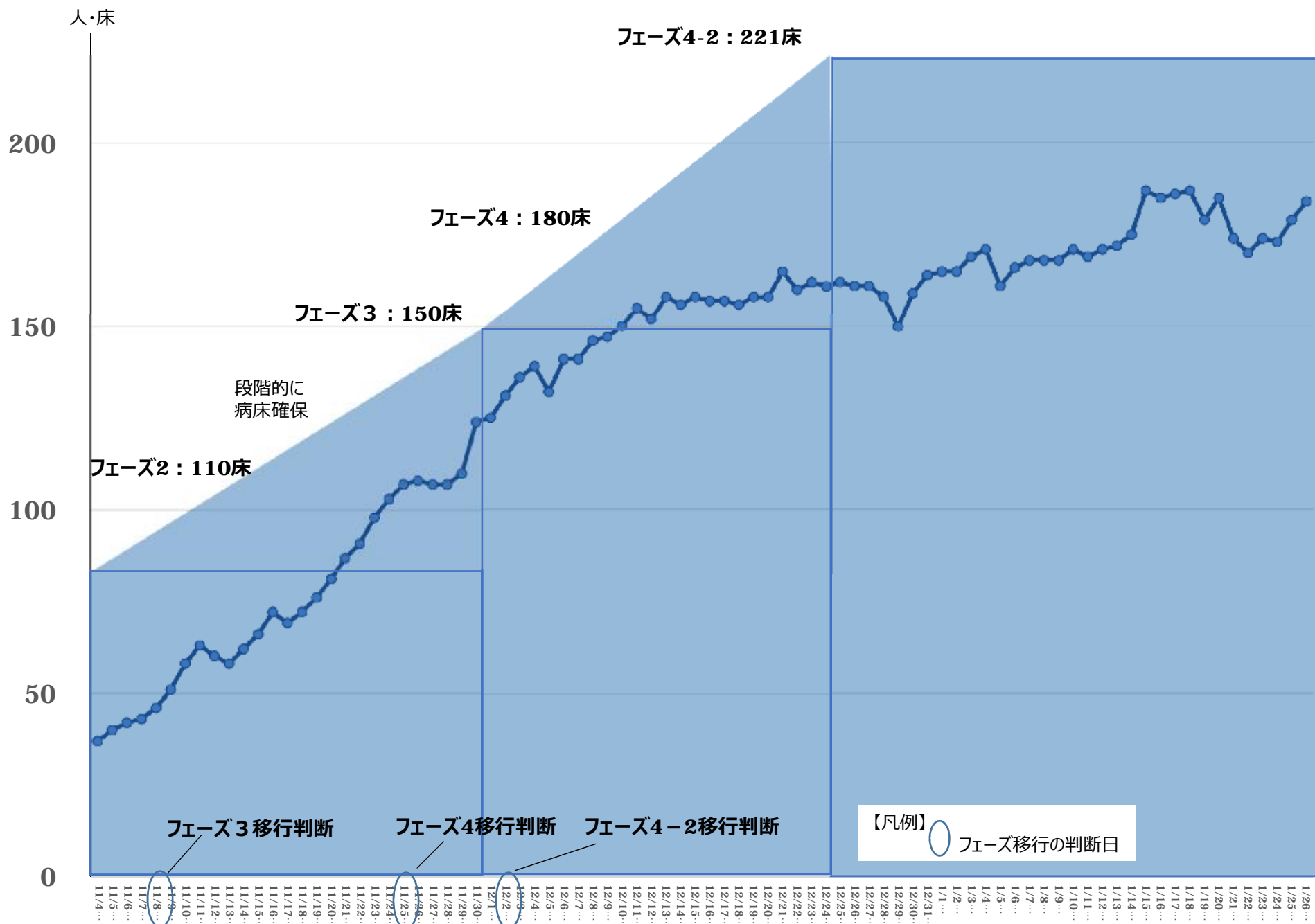
【改定案】※赤字：見直し箇所

- 各受入病院から提出のあった計画病床数の総数を基本にフェーズ毎の病床数を設定
(フェーズ4-2の設定病床数には「大阪コロナ重症センター」30床含む)
- 第3波での実績から、感染拡大期に1日平均4人程度の入院患者数増の発生を見込み、
フェーズ移行の準備期間も踏まえ移行基準を設定

	設定 病床数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況・ 病床運用率 から総合的に判断)
フェーズ1	75床	重症患者数およそ30人以上（設定病床数の40%以上） ⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	110床	重症患者数およそ45人以上（設定病床数の40%以上） ⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	150床	重症患者数およそ105人以上（設定病床数の70%以上） ⇒フェーズ4移行準備
フェーズ4	180床	重症患者数およそ130人以上（設定病床数の70%以上） ⇒ フェーズ4-2 移行準備
フェーズ4-2	221床	—

- 大阪コロナ重症センターについては、当面の間、感染収束期は5床から10床の運用とし、感染拡大に応じて最大30床まで運用
- 更なる感染拡大に備え、新たに重症病床を整備する医療機関に支援する等、221床を超える病床確保について、あわせて取組む

【参考】重症病床 改定案により第3波に対応した場合（イメージ）



病床確保計画（軽症中等症） 現行計画と改定案

【現行計画】

	設定 病床数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)
フェーズ1	500床	軽症中等症患者数およそ225人以上（病床使用率※45%以上）⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	800床	軽症中等症患者およそ360人以上（病床使用率45%以上）⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	1,000床	軽症中等症患者およそ700人以上（病床使用率70%以上）⇒フェーズ4移行準備
フェーズ4	1,400床	—

※病床使用率 = 軽症中等症入院患者数 / 設定病床数

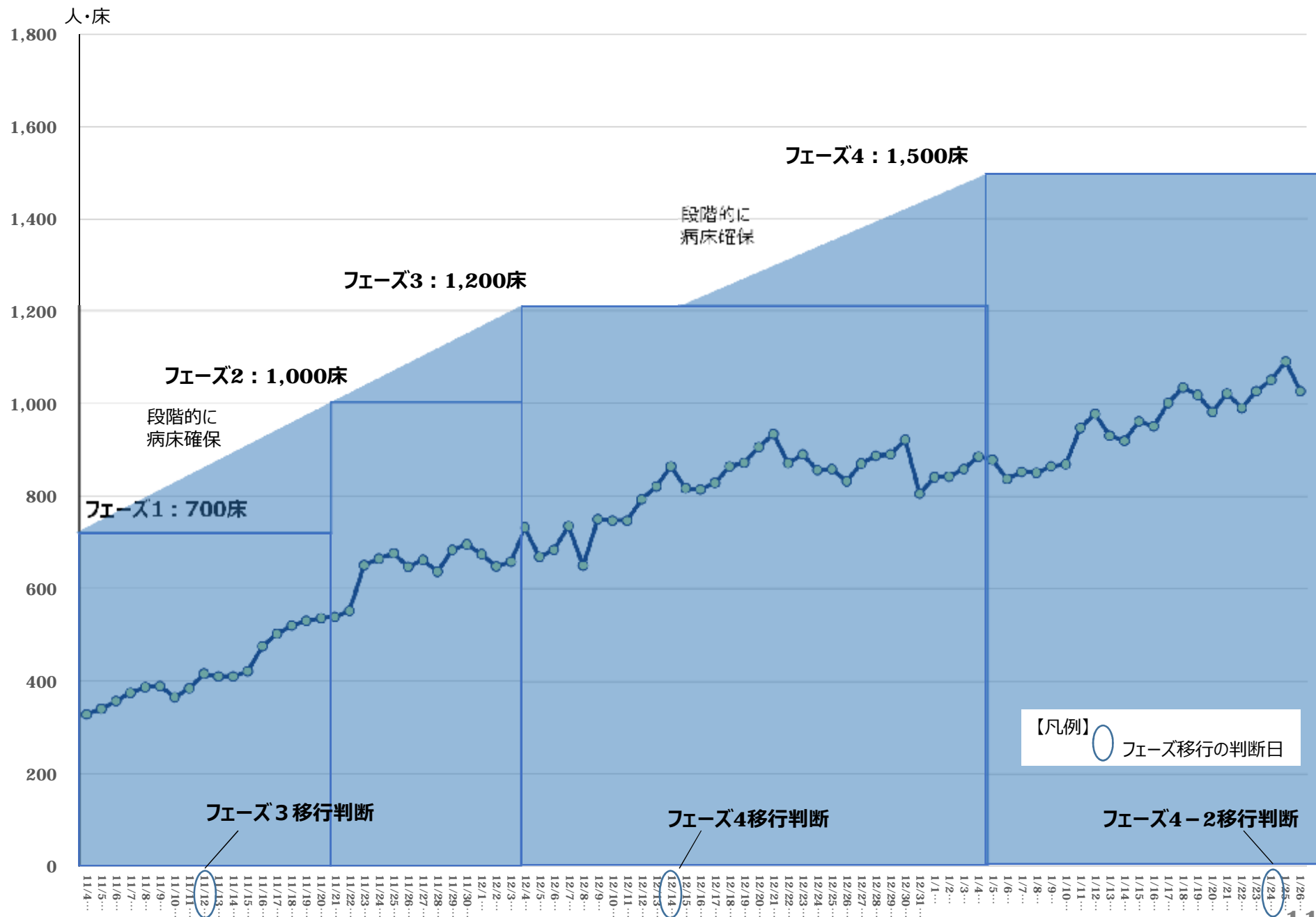
【改定案】 ※赤字：見直し箇所

- 各受入病院から提出のあった計画病床数の総数を基本にフェーズ毎の病床数を設定
- 第3波での実績から、感染拡大期に1日平均30～40人程度の入院患者数増の発生を見込み、フェーズ移行の準備期間も踏まえ移行基準を設定

	設定 病床数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況・ 病床運用率 から総合的に判断)
フェーズ1	700床	軽症中等床患者数およそ280人以上（設定病床数の40%以上）⇒フェーズ2移行準備
フェーズ2	1,000床	軽症中等症患者およそ400人以上（設定病床数の40%以上）⇒フェーズ3移行準備
フェーズ3	1,200床	軽症中等症患者およそ840人以上（設定病床数の70%以上）⇒フェーズ4移行準備
フェーズ4	1,500床	軽症中等症患者およそ1,050人（設定病床数の70%以上）⇒フェーズ4-2移行準備
フェーズ4-2	1,800床	—

- 更なる感染拡大に備え、各医療機関との調整を進め**1,800床**を超える病床確保にもあわせて取組む
- 緊急時を想定した病床の準備等についても検討を行う

【参考】軽症中等症病床 改定案により第3波に対応した場合



宿泊療養施設確保計画 現行計画と改定案

【現行計画】

	設定 部屋数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)
フェーズ1	400室	療養者がおよそ180人以上（ホテル稼働率45%以上）⇒フェーズ2 移行準備
フェーズ2	800室	療養者がおよそ480人以上（ホテル稼働率60%以上）⇒フェーズ3 移行準備
フェーズ3	1,036室	—

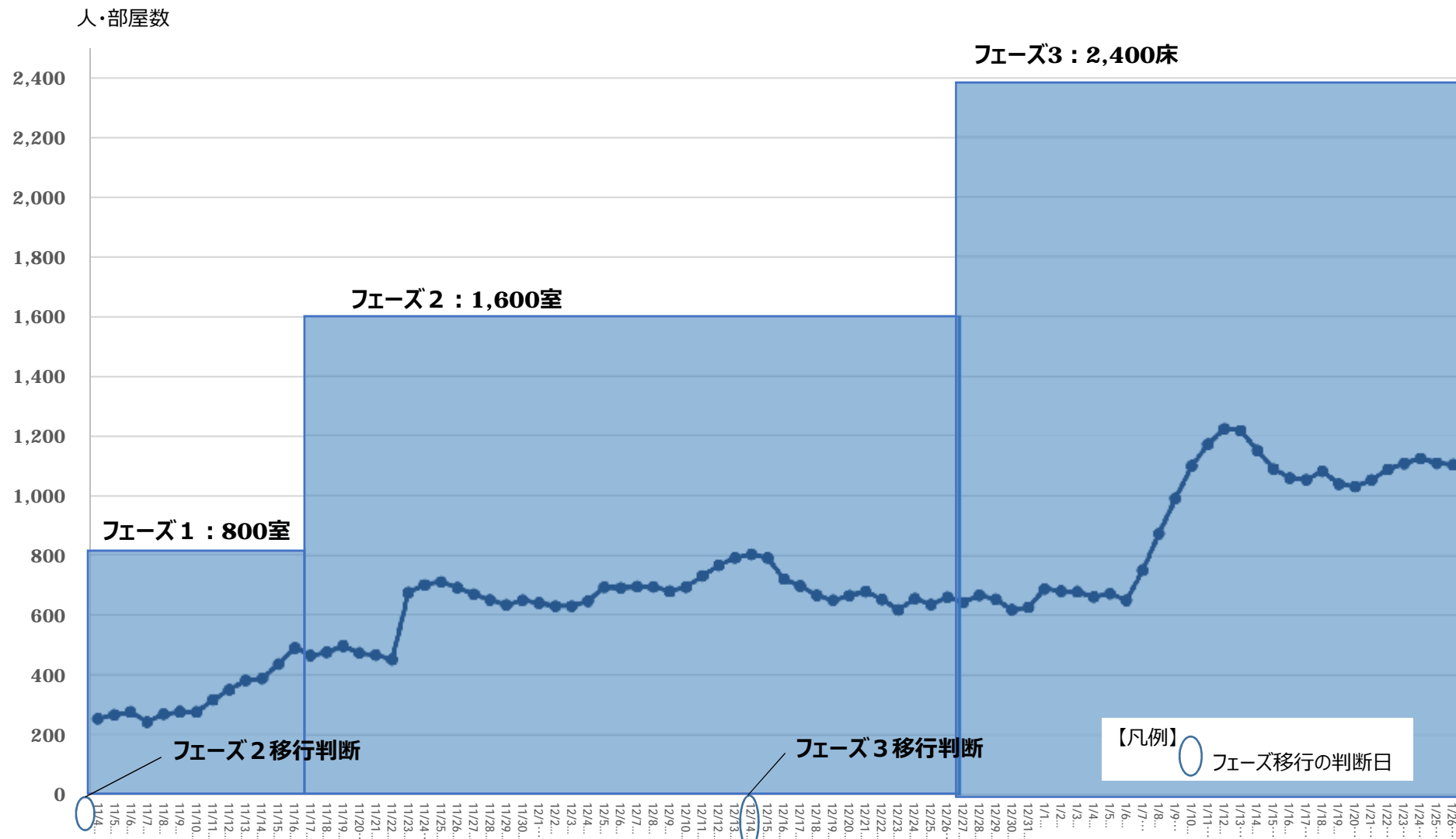
※ホテル稼働率 = 宿泊療養患者数 / 設定部屋数

【改定案】 ※赤字：見直し箇所

- 第3波での確保実績を踏まえ、部屋数等を設定（療養者受入のためのホテルの準備期間は2週間程度）
- 宿泊施設については、その確保及び稼働に一定期間要することなど運用上様々な制約があるため、フェーズの移行については、療養者数の増加に対して早い段階での移行が必要

	設定 部屋数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)
フェーズ1	800室	療養者がおよそ240人以上⇒フェーズ2 移行準備
フェーズ2	1,600室	療養者がおよそ800人以上⇒フェーズ3 移行準備
フェーズ3	2,400室	—

【参考】宿泊療養施設 改定案により第3波に対応した場合



病床運用にかかる府の考え方と病床逼迫時の対応

● 病床運用にかかる方針と医療機関への共有の徹底

入院調整を円滑にするために、以下の2点について医療機関と病床運用方針の共有を徹底

○軽症中等症については、退院基準が発症日から**10日**が基本であることを考慮し、
1日当たりの受入患者数は基本1割以上（**10床未満は一人以上**）とする

○休日・夜間についても、基本受入体制を整える
（重点医療機関・協力医療機関については、休日・夜間の患者受入が指定要件）

● 病床逼迫時の対応（病床運用上の取扱い）

第3波の際に緊急要請等を実施した事項について、次の感染拡大期に備えルール化を図る

【重症病床】

○病床運用率が概ね**85%**程度となる等、受入病院での新規受入が困難となる場合

▶ 軽症中等症患者受入病院（一定規模以上の公立病院等に限る）に対し、
当該病院の受入患者で重症化した場合、当該病院において治療継続を要請

【軽症中等症病床】

○病床運用率が概ね**85%**程度となる等、受入病院での新規受入が困難となる場合

▶ 軽症中等症患者受入病院に対し、患者受入に際しやむを得ず休床した病床を活用し
更なる病床確保を要請

● 緊急時の対応

○緊急時を想定した病床の準備等についても検討を行う

※ **新たな病床確保と併せ、これらの対応により更なる感染拡大に対応できるよう取組む**